

# 秋田駒ヶ岳

## ○概況

地震活動は穏やかに経過しました。

9月15日に現地観測を実施しました。その結果、女岳北側噴気地熱地帯の状態に変化はなく、異常はみられませんでした。

## 地震活動の状況

地震回数の月合計回数は6回(8月2回)と、引き続き低調な状態が続いています。

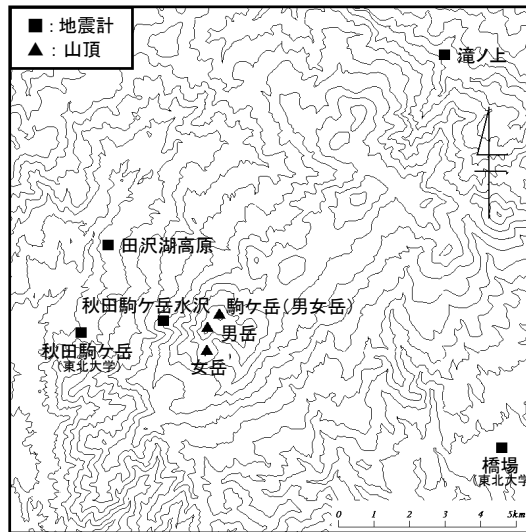
モホ面付近(深さ30km前後)が震源とみられる低周波地震は観測されませんでした(8月2回)。

火山性微動は観測されませんでした。

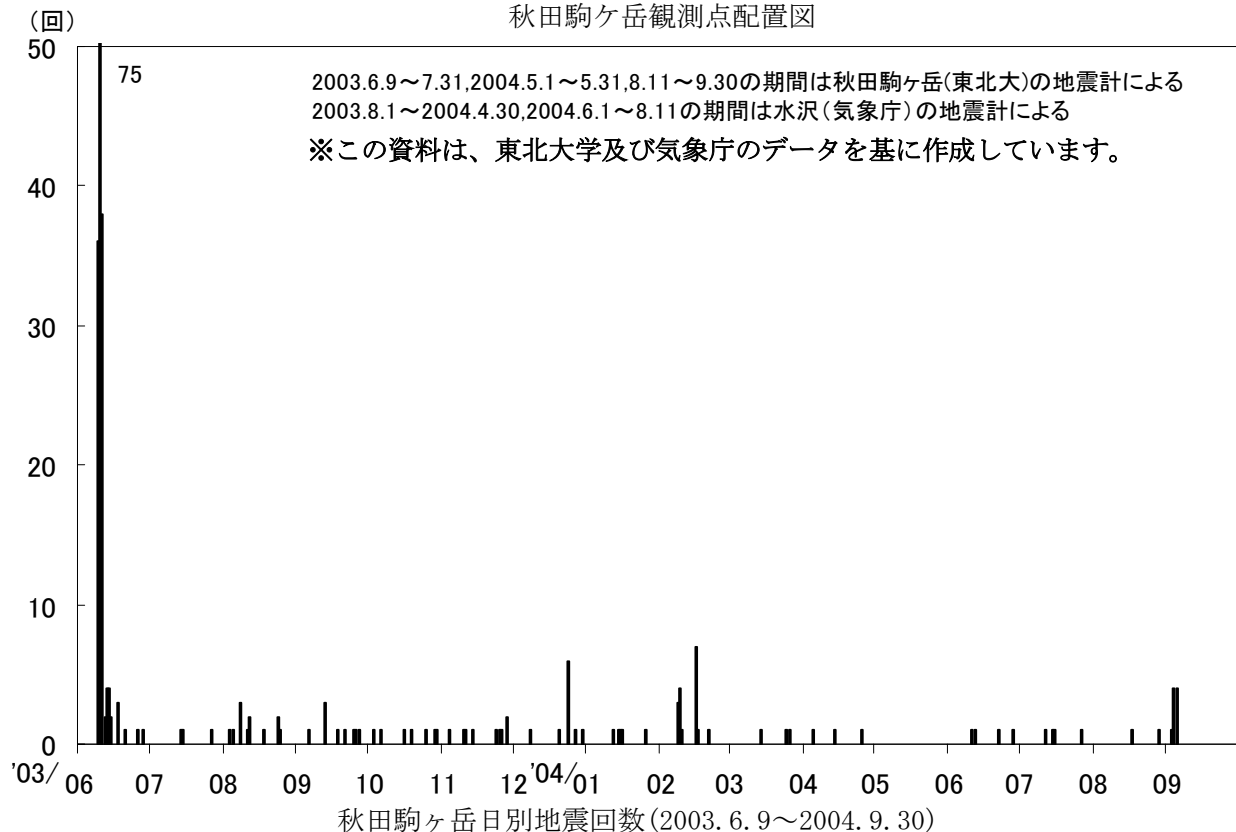
## 現地観測の状況

9月15日に赤外熱映像観測、噴気、地中温度観測を実施しました。

昨年6月11日の観測結果と比較して、女岳北側噴気地熱地帯の状態に変化はなく、異常はみられませんでした。



秋田駒ヶ岳観測点配置図



# 秋田駒ヶ岳

## ○概況

9月15日に、秋田駒ヶ岳の赤外熱映像観測、噴気、地中温度観測を実施しました。  
 昨年6月11日の観測結果と比較して、女岳北側噴気地熱地帯の状態に変化はなく、異常はみられませんでした。

### 秋田駒ヶ岳火山現地観測結果 (9月15日実施)

女岳山頂北部及び大焼砂を中心に、赤外熱映像観測、噴気、地中温度観測を実施しました。

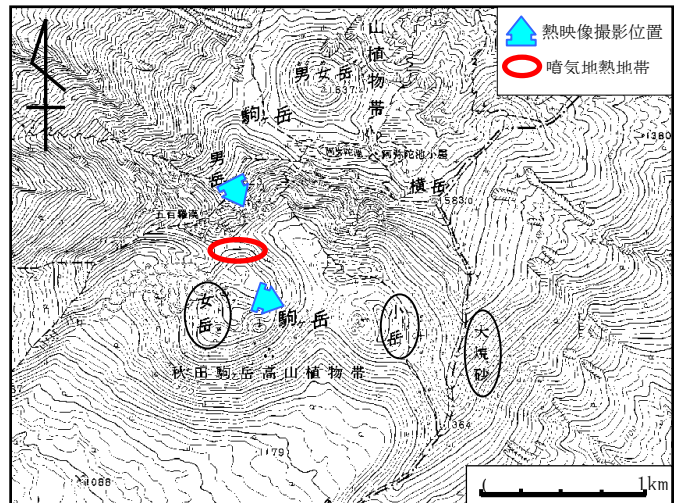
女岳山頂北部の噴気地熱地帯は、1970年の噴火前から確認されており、近年も登山者等から噴気に関する情報が寄せられている場所です。

昨年6月11日の観測結果と比較して、噴気地熱地帯の領域に拡大はみられず、噴気温度、火山ガス成分の観測結果にも変化はみられませんでした。

大焼砂は、女岳、小岳を中央火口丘としたカルデラ外輪東側に位置し、植生はありません。冬期でも地肌が露出することがあり、雪解けも早い場所です。

今回の赤外熱映像観測では、日射の影響による高温領域は解析されたものの、地熱の高い領域は解析されませんでした。

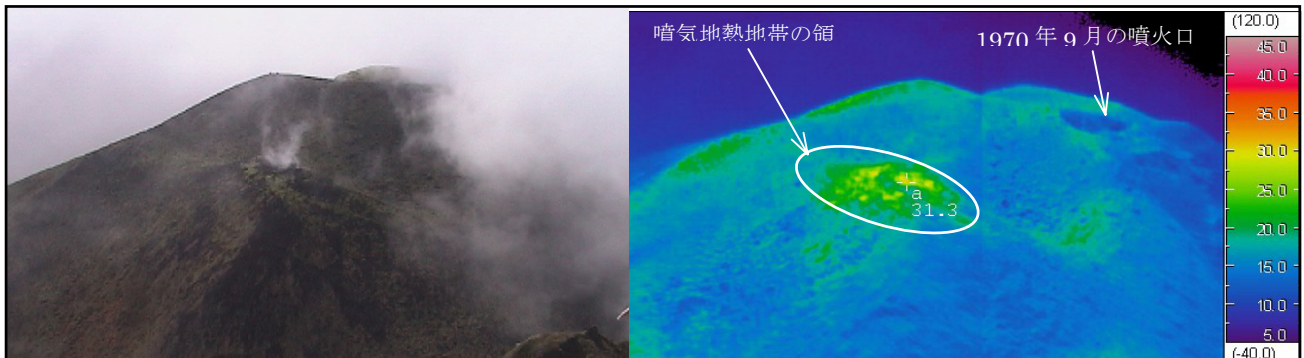
また、50m間隔で行った地中温度観測結果は、外気温度とほとんど同じ13~16℃で、異常はありませんでした。



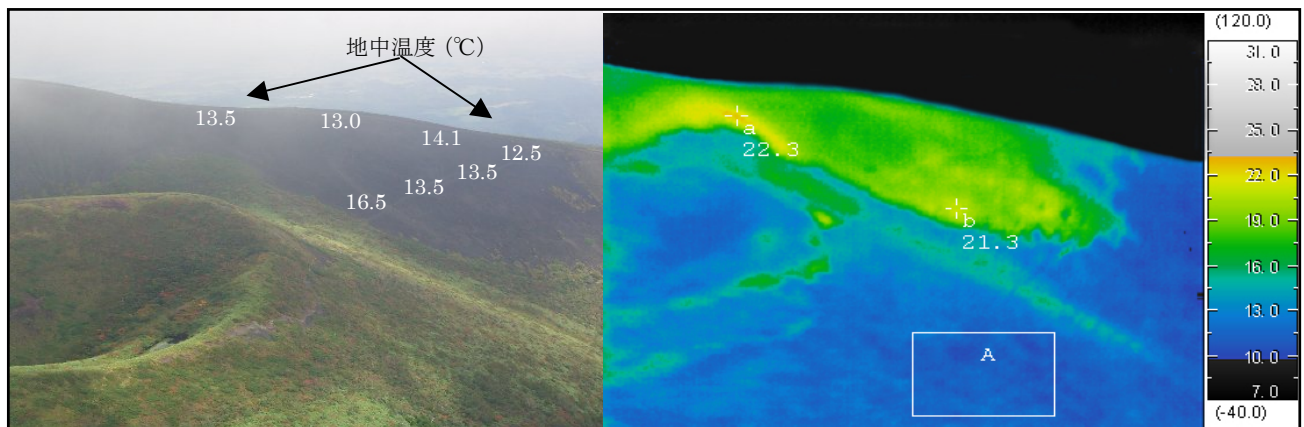
秋田駒ヶ岳の地形図と熱映像撮影ポイント

	現地観測結果の比較(女岳山頂北部)		
	平成16年9月	平成15年6月	平成7年9月
天気・気温	曇・13℃	晴・18℃	雨・11℃
噴気温度	72℃	86℃	73℃
火山ガス	H2S -	H2S -	H2S -
	SO2 -	SO2 -	SO2 -
	(ガス警報機による観測)	CO2 4.0%	CO2 3.6%

秋田駒ヶ岳現地観測データの比較



女岳山頂北部噴気地熱地帯の可視画像(左)と熱映像解析画像(右) (男岳山頂より撮影 晴・15℃ 放射率:1.00 ノーマルレンズ)



大焼砂と小岳の可視画像(左)と熱映像解析画像(右) (女岳山頂より撮影 曇・13℃ 放射率:1.00 ノーマルレンズ)